

公益社団法人宇都宮青年会議所
2014年度 第2回 常任理事会

日 時：2014年 2月 12日（水）19：00～21：56

場 所：コンセーレ J Cルーム

出席者：

- (理 事 長) : 村上(敬称省略 以下同)
(直 前 理 事 長) : 福田(治)
(顧 問) :
(副 理 事 長) : 朝田、木村(英)、福田(之)、小瀧、須山
(専 務 理 事) : 中島(崇)
(監 事) : 澤畑
(担 当 常 任 理 事) : 林、金
(全国大会招致会議議長) : 羽石
(会員拡大会議議長) : 太城
(協働連携特別会議議長) : 安野(代理)
(法令会計審査会議議長) : 廣田
(事 務 局 長) : 橋本

1. 開会宣言 <中島(崇)> (役職名省略 以下同)
2. J C I クリード唱和 <羽石>
3. J C I ミッション並びに J C I ビジョン唱和 <金>
4. J C 宣言朗読並びに綱領唱和 <廣田>
5. 関東地区宣言唱和 <羽石>
6. 出席者の確認 <橋本>
出席理事名 13 / 14 名
7. 議事録作人の指名 議事録 <総務委員会>
8. 前回議事録の確認 <中島(崇)>
9. 議題並びに資料の確認 <橋本>
10. 理事長挨拶 <村上>

まずは、この2月の第2回常任理事会にお集りいただきありがとうございました。そしてまた、本日早い時間からご設営いただきました総務委員会の皆様、ありがとうございます。本当にあたり前のようにこの会議を毎回我々ができるのも皆様のおかげです。感謝している次第です。

そして1月から始まりましてはや1ヶ月を過ぎようとしていますが、1月の理事新年会、そして先日行われた日本 J C 会頭公式訪問まで怒涛の1ヶ月でございました。これは専務、事

務局長をはじめとする渉外ラインの皆様にはご尽力いただきまして、滞りなく京都會議、日光會議を含めて、新妻委員長をはじめとする渉外委員会の皆様には頑張ってくださいました。是非労いの言葉をかけてほしいと思います。

先日行われました日光會議でございますが、一つ私は感想を持っております。11LOMの紹介が例年あり、私がプレゼンをさせていただいたのですが、当たり前ですが真面目やらせていただきました。他のLOMをみると、ウケ狙いや、ふざけた映像を流しているのに正直ガッカリしました。栃木ブロックの全体會議は2回しかありません。その第1回目の年初の會議として、栃木ブロックの会員の多くが集まっているのにどうなのかという疑問がありました。参加していただいたメンバー、特に常任理事や委員長の皆さんは、各委員会のメンバーに是非伝えてほしいのですが、宇都宮JCとしてのスタンスというのは曲げる必要はないのだと思っています。會議は当然真面目にやるべきだし、できれば他のLOMにも、我々の事業紹介をする枠があれば、精一杯どういったことを考え、何のために1年間活動して行くのかをしっかりと発表できるのではないかと思います。宇都宮のメンバーの皆は、ぶれずに発信し続けてほしいなと思います。私自身プレゼンテーションの仕方として反省すべきところもありますが、来年にはもっとよいかたちでプレゼンできればと思いますので、私自身が検証したものをしっかりと来年に引き継いでいこうと思います。JCも年々進化していかなければなりませんので、皆様も参加した諸大会でもっとこうしたほうが良いという点があれば、渉外委員会や事務局長に伝えてください。

そして、いよいよオリンピックがはじまりました。今朝のスノーボードでは、15歳と18歳が、銀メダルと銅メダルを取ったという快挙がありました。当然、成績が上がれば取り上げられ、日本中が盛り上がります。テレビのニュースが一色となりました。今日のでき事で、今後のスノーボード界は変わっていくと思われそうです。競技人口が増えたり、導入するスキー場も増えたりと、いろんな影響が出てきます。所信にも書かせていただきました通り、やはり、成果を出すことによって劇的に変わっていくさまを、オリンピックを通して見て取れると思いますので、是非オリンピックで盛り上がっていく前と後、そして未来を、気を付けてみておいていただければという感想であります。本日報道されていますが、優勝を確実視されていた女子スキージャンプが、残念ながらメダルを逃しました。オリンピックは常々、平常心を保つのが難しいと言われていますが、改めてそれを感じた次第であります。JCでもよくあるのが、人前でのスピーチ、大きな舞台、委員会や例会の3分間スピーチで固まってしまうことがあると思いますが、これは経験でしか乗り越えられない部分でありますし、もちろん私も今でも緊張します。この会を重ねることで、言いたいことをスムーズに話せるようになりますので、常に平常心を保って、言葉を選んでしっかりと相手に伝える。これもトレーニングを積んでいけば、これが日々の社会生活で生きていくのではないかと思いますので、是非積極的に機会を受けとめてそれを乗り越える。そんな前向きなJCであってほしいなと思います。

そして私は本日、理事長としてはじめて行政出向の方に参加してきました。宇都宮中心市街地活性化協議会というところで理事長が委員になっており、第1回目の今年の會議がありましたので出席してきました。ただ参加している、約40人で構成されている団体なだけかと思いましたが、大学の教授や市役所の職員など、各市民団体が積極的に発言をしていましたし、法律の部分であったり、助成金をどうやってもらえるのかなど、多岐にわたり2時間くらい話しをし、多くの気づきや学びがある一日でありました。先日、新聞を読んでいて、色々な町づくりのフォーラムやシンポジウムを開催しましたという記事が載っているわけですが、なんで行かなかったのだろうと思いました。間違いなく我々は市民のための活動をしている団体でありますから、来てもらう話だけでなく、自分たちから情報を拾って行かなければいけないと思いますし、そういったところに積極的にJCメンバーが出て行き、勉強して行くことで、我々の運動の広がりにつなげていければと感じております。是非みなさんもアンテナをしっかりとばしていただいて、新聞でもSNSでもテレビでもなんでも良いので、自分の担当ではないところでも積極的に行ってみたり、担当ラインに近いのであれば、伝えて一緒に参加してみる。そんなメンバーであってほしいと思います。

最後に皆様にお伝えしたいのは、先の参議委員の予算委員会で、文科省の下村大臣が、日本JCの領土領海プログラム青少年版について言及されていましてという話であります。先日、建国記念日がありましたが、領土領海で近隣諸国と問題となっておりますが、日本国民に自分の国の領土領海がどこまでかというアンケートをJCでとったら、全然知らないという事実がわかったわけです。なぜ知らないのかと子どもたちに聞くと、教育を受けていないからという回答でした。多分ここにいるメンバーも自信をもって答えられる方っているのでしょうか。ほんと数人ですが、これも多分何かの機会に勉強しているからだと思います。今回下村大臣がJCのプログラムを实际使い、全国の教育機関に広めていくという話をされました。JCのメンバーにも協力してもらい、全国に推進していくということを国会で話しているのですが、JCが作った運動が、日本の国、政府を動かすといういい例だと思います。これは、我々が宇都宮の中でもいえることで、先程の話でアンテナを伸ばしていく、運動をしていく、事業をしていくことで、市の行政であったり、市民の人たちを動かすことが可能なのです。是非いろいろな想定をしていただいて、こういう仕掛けをすればもっと広がっていくのではないかと委員会の中で話し、事業構築をしていただきたいと思います。今月も審議予定案件等もありますが、是非運動の広がりということを念頭におきながら、事業構築、そして今日の会議に臨んでいただければと思います。

11. 直前理事長挨拶

<福田(治)>

皆さんお疲れさまでございます。ほんとに遅参して大変おこがましい感じなのですが、今日は20日から行われる商工会議所青年部さんの全国大会の会議にお邪魔してまいりました。冒頭、中島専務の方から皆様に何かお願いがあったかと思いますが、最終的に調整してまいりました。YEGのお話をさせていただき前に少しだけお話をさせていただきますが、今オリンピックをやっており、若い人たちがメダルを取りはじめました。これは本当に希望だと思います。メダルを取った後のインタビューを聞いて、JCの人達は、この人スノーボードしかやっていなかったのだろうなと思った人もおられますが、メダルに上り詰めたのは賞賛にあたると思います。スポーツの世界での若者たち、この経済地域を担う若手世代というのはJCだと思います。会社で仕事をし、会費を払いながらJCという組織に属して運動をすすめている。すばらしい崇高な理念を持った人たちだと思います。是非ともそこで考えていただきたいのですが、彼らはスポーツのプロですが、みなさんは何のプロなのでしょうか、人格なのか、人作りなのか、まちづくりなのか、意識改革、表現の仕方も色々あるのだと思います。表現の仕方も、人作りも色々です。ただ汗をかくのに寄与するのだと思います。常任理事を担っている人たちはまったく考えずにできるわけがありません。やはり村上理事長をサポートし、各委員を支えるリーダーになっているということを今一度自ら問うてみてください。これからの時期というのは、会議が重要になっていく数ヶ月だと思います。みなさん事業の経過をみていただければわかると思いますが、後半にウェイトの大きなものが2014年度はあると思います。そこに行ったときに作り上げるのではなくて、この時期からしっかり作り上げないと後半が大変になってきますから、そこはしっかりと準備して会議に向き合い、臨んでいただきたいと思っております。そしてその運動と方向性というのは所信にすべて書いてありますので、しっかりと向き合ってもらいたいです。多少正副での意見が反映されていないのは、担当の副理事長と常任理事の責任以外なものでもありません。しっかりパイプをつくり、それを再度構築し、そして二人の頭の色を同じ色にしていかないと、村上理事長の思っていることが通っていきませんので、是非ともそこをよろしくお願ひしたいと思います。それとYEGの全国大会になりますが、20日、21日、22日と行われます。ドレスコードはカジュアルにJCジャンパーです。20日はゼロで結構です。21日は最低30名、22日は20名、細かい時間等は追ってご連絡させていただきます。21日は基本的に総合文化センターとグランドホテルにそれぞれ5名くらい。その他のみなさんはマロニエにプラザの大懇親会の設営、受付、クローク、駐車場係をお願い

いしたいということですので、是非とも皆さんスケジュールをあけていただければと思います。休憩を考えると多数ぜひとも出ていただきたいと思います。長くなりましたが、常任理事の皆様におかれましては、これからの飛躍を期待させていただいておりますので、是非ともしっかりと準備をして臨んでいただければと思います。

1 2. 役員報告

<小瀧> 先日行いました京都会議にたくさんのメンバーにお越しくささいましてありがとうございました。理事会の場におきまして全国大会運営会議の主催としての松山大会の方とは違うファンクションとして、一連の流れの中で対話集会に関するものと、主幹立候補の予定に関するものと、議案名としましては2017年第66回全国大会主幹立候補受付並びに審査日程という議案を審議可決させていただきました。会議の場に皆さんが応援に来てくれたことに感謝いたしますとともに、3月にも日本JCのファンクションとしてとして復興創造フォーラムがありますので、そちらも合わせてたくさんの方にお越しいただきたいと思います。

<中島(崇)> JCルームでございますが、2月10日をもって禁煙という形で今後進めさせていただきますのでご協力のほど宜しくお願い致します。続きまして明日、2月13日に市長の応援の会J1クラブが行われます。LOMを挙げての告知は控えておりますが、私の方では是非応援させていただきますという形でご連絡をさせていただいております。続きましてYEGの協力ですが、まだ何時に何人必要という具体的な話が出ておりませんが、現在私の知っている情報ではお伝えさせていただきますと、2月21日金曜日に約60名の動員協力をしてほしいと言われております。内容としては主にマロニエプラザで大懇親会が行われますので、そこでの誘導、受付とコアタイムで力を貸してくださいということになると思います。2月22日の開会式典は9時から県体で行われますので、30名にコアタイムとして力を貸していただきたいと思います。詳細に関しては福田直前からお話があります。確実に全メンバー対象のもとで協力をしてくださいというアプローチをしなければいけませんので、まずは常任理事会構成メンバーの皆さんがメンバーに対して話をさせていただきますようお願いいたします。

1 3. 協議事項

協-01 3月 全国大会招致セミナー 開催計画並びに予算(案)について

協議資料に基づき、羽石議長より上程文の読み上げ。

<中島(崇)> 事業目的はブロック内のメンバー対象中心となってくるかと思いますが、全国大会について学んでもらうということですが、全国大会の何について学ぶのかということまで記載していただければと思います。講演していただく内容自体が4本立てで書いておりますが、全国大会自体はみなさんご存知だと思いますので、宇都宮でセミナーをやることについて、その先に何を学んでもらうかが必要ですので、そこは記載していただきたいです。案内文、追加動員計画に結びつくところで、ブロック内メンバー全員対象という形になったかと思いますが、メンバーに対する案内が入っておりません。メンバーには送らないかたちなのか、県内LOM理事、県内LOM専務対象であれば必要ないかもしれませんが、県内メンバー対象であれば県内メンバーに対する案内文が必要なのでは

ないかと思います。それから参考資料に誤字、変換ミスがありますのでもう一度精査していただければと思います。あとアンケートは参考資料でなく、審議対象資料に修正いただきたいと思います。

<橋本> 講師は当日国際線で帰ってこられるという話ですが、遅参については考えられているということでしたが、遅参ではなく飛行機が飛ばない場合の対応はどうなっているのでしょうか。

<羽石> 飛ばないという場合についてですが、現段階では明確には対応していません。

<林> 講師の遅れる可能性がありうるというところで、たとえば遅れることを想定してビデオ上映する場合のタイムスケジュールを前もって添付するなど検討する必要があるのではないかと思います。

<村上> 審議直前の会議の上程で講師が来なければビデオを流しますだと例会にならないです。会員の会費で目的があって例会をやるわけだから、やっぱり講師が来られないリスクがあるなら、来れなくてもちゃんと会を成す事業計画を用意しなければならないです。これは正副でも言っているはずですが、それがこの会議の段階で対応されてないとなると、この前の正副は何だったのかということになってしまいます。次の理事会までに審議がとれるまでの議案を持っていただけるようお願いします。最悪は臨時理事まで行かなくてはならなくなってしまうので、紳士に受けとめてやってほしいです。

協-02 4月 姉妹JC交流事業（案）について

協議資料に基づき、金常任より上程文の読み上げ。

<林> ホノルルチャイニーズJCとの打合せ進捗状況を添付しているのですが、詳細について14、15日にまた打ち合わせをするお約束をされているかと思いますが、これはどなたか、委員長などがお邪魔して打合せするのですか。

<金> 14、15日に委員長と私で飛んで参ります。

<廣田> タイムスケジュールにホノルルチャイニーズJCの「乾杯の挨拶」のところの乾杯を抜いてもらえますか。

<村上> 現地調査に行かれるということで、ご連絡を事前にいただいておりますが、大変ありがたいことだと思っております。今年久しぶりに交流が復活する元年という位置づけのなかで、どうしても現地調査が判断だったと思います。ただ、来年以降に仮に姉妹交流委員会でもまた来年ハワイに行くということになった場合、担当委員が現地調査に絶対行かなければならない前例にならないようにしてほしい。今年はやむをえないとしても、現地調査がなくても来年以降スムーズにできるようなかたちをなんとかつくってほしいと思います。また、実際は交流事業なので、現地での臨機応変な対応が重要になってくると思います。議案上はしっかりしたものを、次回の審議までに見直して精査していただくのはもちろん、いろんな想定をシュミレーションしてほしいなと思いますので、そういった部分も含めて是非お願いします。

協-03 4月例会 法令会計事業（案）について

協議資料に基づき、廣田議長より上程文の読み上げ。

<金> 早押しクイズですが、イメージが湧かないので具体的にどんな感じで考えているのか詳しく教えてください。

- <廣田> 今現状で考えているのが2とおりにございます。一つはiPad、iPhoneを使った委員会対抗早押しクイズ。もう一つがビリビリを使った早押しクイズを考えおります。この部分に関してはクイズなので少し楽しみも入れさせていただいております。ただビリビリが法律上大丈夫なのかの確認がとれておりませんが、今現在2とおりで考えております。
- <橋本> 公益法人でというところで、ワークショップで話していただくことですが、その質問書を見させていただいて、基本的にオープンクエスチョンでメンバー一人ひとりの現在の知識と取り組み、姿勢意欲等が如実に出してしまうのではないかと思います。たとえば私が書けと言われても書くのがかなり難しいレベルの質問なのですが、これを10分間、時間を与えてどれくらい本気で取り組むか正直なところ難しいのではないかというイメージなのですが、それについてのご意見、どのように考えているのかを教えてくださいと思います。
- <廣田> まさにおっしゃったとおりのことが狙いであります。一人ひとりで考えても何も出てこないと思います。なので委員会単位のワークショップ、グループ単位で考えていただくようにしております。こちらの答えは正しいという答えがない。なので、現在の知識と考えることで問題喚起を起こしてもらえればという狙いでオープンクエスチョンになっております。
- <須山> 非常に難しい内容だとは思いますが、廣田議長としてターゲットは誰にしているのですか。
- <廣田> どこかと言われますと解答に困るのですが、入会年度の浅いメンバーはすでに公益で入ってきておりますので、コンプライアンスも財政審査もこなしております。私の感じでは、話を聞いてイメージがしやすくなるのではないかと思います。キャリアの長い方は公益の移行時期を経験しておりますので、よくご理解があると思いますが、それ以外の方はどれだけあるのかというのが私の中でもございます。なのでターゲットにおいてはすべての層に当てはまると思います。
- <須山> 案内文をみて果たして来るのかというところ。来なくちゃ話にならない。全メンバーを含めてやはり来やすくする仕組みをもう少し考えた方がいいと思います。もう一般に戻れないというのは実は深い話だと思うのですが、公益を取ったけれど、一般に戻って解散して資産を寄付するなどのそういうのは聞きに来なければわからないと思います。その辺の心くすぐるような部分を案内しては如何でしょうか。入会の浅いメンバーに公益の話は難しいと思いますので、電話とかで呼びかけるようそのへんの思考を少し変えていただければと思います。
- <廣田> 動員の部分に関しては委員会にて再度精査して参ります。
- <林> 質問ですが、メンバーが見識を深めたという検証に関して、どういった方法で行う予定でしょうか。
- <廣田> 見識、理解度に関してはクイズで測っていきます。
- <金> 今の質問について、理解度をクイズでとっていくと、すべての人がクイズに答えられないわけですが、それともすべての人が答えるのですか。
- <廣田> 今現状で、考えている中では委員の中の代表がボタンを押すような形でございます。なので前段で早押しでわかった委員が答える。我々そこにいる全メンバーが参加できていると思います。
- <金> ということは、他の早押しでそのテーブルの人が答えるとなると、他のテーブルの人がもちろん理解しているのか把握できないと思いますが
- <廣田> 確かに金委員長がいうとおりにだと思いますが、ただその前段でそこに取り組んでいる状況で理解が上がっているのか、下がっているのかが見れるという認識があります。
- <小瀧> そもそもこの公益制度の知識を深めてどうしたいのでしょうか。

- <廣田> 先程から何度か説明させていただきましたが、我々は公益法人です。そのもとでメンバーは活動しなければなりません。それには公益法人とはどんなものなのか、メンバー一人ひとりが知識をもっていなければ、今後の運営活動の判断ができないと思っております。そのためにも、よりよく知識を増やしていただくという考えです。
- <小瀧> 当事者意識を持っている法令会計審査のメンバーは深い知識を持とうと思っているけれど、一般メンバーが自発的に覚えないとなかなか興味が湧かない覚えじゃないかと思えます。それを聞いたただだとクイズのための知識になってしまう気がします。
- <橋本> 理解度を深めるための早押しクイズということなのですが、冒頭にオープンクエスチョンで問題提起をされるということだと、理解度を測るのであればその測るための手法はオープンクエスチョンじゃないかと思えます。なぜなら、理解するときにはアウトプットしながら理解するケースが非常に多いからです。早押しクイズだと早く押した人だけが知っている、知らないだけのことになってしまうからです。それであれば、設えとして冒頭の早押しクイズ、そのあと講演をやり、真ん中、もしくは最後に委員会内のバズセッションでアウトプットさせたほうがより理解度が深まるのではないかと思います。その点如何でしょうか、ご意見いただければと思えます。
- <廣田> 冒頭の質問の我々の狙いですが、今現状のメンバーの知識のあぶり出しを目的としています。例会、講話の後の質問クイズ、その部分とは少し意味合いが違うものとなってしまいますので、こちらで正解を出すのではなく、みなさんに考えてもらう場を提供したいということがありますので、前段のクイズになっております。
- <村上> 本当によい意見がでたと思えます。今回の意見を持ち帰って話し合い、メンバーとよりよい設えを考えていただければと思えます。その中で私が感じたのは、対内事業じゃないですか。公益法人や法令会計という言葉にアレルギーを持っている人も実際は多いと思えます。もうちょっとキャッチーなタイトルや案内文にした方がメンバー動員に繋がるのではないかと思います。それと内容に関してですが、色々楽しませるのに考えていただいていることは、それは結構なことだと思えます。明るいポジティブな内容を入れたほうがいいのかなと思えます。たとえば不祥事な例から学ぶというのは、よいアプローチだと思えます。であるならば一方で公益だからこういうことができるのですよとか、公益だから町の発展に寄与できた、そんな事例なんかも紹介できればいいのではと思えます。結局この事業を通してそれぞれ参加したメンバーがこれからこの後半に向けて事業を計画するにあたって、公益社団法人のメリットを存分に発揮できるきっかけになる例会だと思えます。今回成功すればそれぞれの委員会のスケールが大きくなると思えますので、こういったことをそれぞれのメンバーが持って帰れるような、そんな設えを突き詰めて考えて欲しいと思えます。

協-04 5月 第33回わんぱく相撲うつのみや場所開催計画並びに予算（案）について

協議資料に基づき、林常任より上程文の読み上げ。

- <中島(崇)> フォーマットの体裁的な所でございますが、タイムスケジュールに監事講評が入っていないので入れてください。それと参考資料等のリンクがとんでいない

ものがありますので、こちらに関しては必ずリンクをとばしていただいて確認をして、最終チェックをするようにしてください。最後ですが、300名を呼ぶアクションプランで配布先リストを増やしていただきましたが、こどもたちが集まるところに配布することがアクションプランになるのでしょうか、300名を呼んでわんぱく相撲をするところが今年が一番力を入れているのだと思いますが、結果として大きなわんぱく相撲をやりたいというところを目標として持っているのであれば、しっかりとここを固めていかないといけないと思いますので、もう一度検討していただきたいです。

- <須山> 意見と対応ですが、Facebookの対応は考えていないのでしょうか。
- <林> Facebookに関しては、活用についてアクションプランも含めて行動計画を纏め検討していきたいと思います。
- <小瀧> タイスケの開会式、閉会式、国旗掲揚はメディアアーツさんにお任せするのでしょうか。
- <林> こちらは司会をメディアアーツさんをお願いをします。実際の掲揚などはメンバーで行いたいと思います。
- <須山> 備品リストをつけていただきたいと思います。
- <村上> 体裁についてですが、文字、リンクのレベルは、常任、副理事で確認してあげないといけない。それとやはりみていると、わんぱく相撲をやるのが目的になっている気がしてならない。アクションプランの作り方も含めて、目的を常に立ち返りながら企画していかなければいけません。目的ももう少し精査し直して、目的を達成するためにわんぱく相撲をやるわけでありますから、その観点に立ち返って議案をどう作り上げていくかを、突き詰めてほしいと思います。なぜ300名にするのか、そういうものも全部、詰まるどころ、僕の初心に書かせていただいたところと言えば、常に未来を見据えて繋げていく人が1人でも多く、というところがあると思うのです。そのためにより多くの人を集めているのだと思うのです。地域のための人材を考えると、郷土愛がわんぱく相撲の宇都宮場所ならば、宇都宮らしい何かを検討し、エッセンスを入れて色々と考えていただきたいと思います。

協-05 5月 第33回わんぱく相撲うつのみや場所告知計画並びに予算(案)について

協議資料に基づき、林常任より上程文の読み上げ。

- <金> ポスターチラシに関して、どこに配るという一覧があるのですが、どこに何枚ずつ配る予定ですか。
- <林> ポスターに関しましては、小学校や訪問先に各1枚ずつ配布の予定となっております。小学校に関しましては、募集要項、参加申込書を通常各10枚ずつ配る予定です。チラシに関しましては今回新たに作成する予定で、細かい配布枚数など決まっていないので持ち帰らせていただき、具体的に検討して参ります。
- <金> 予算で枚数が決まっているのであれば、配布先リストに何枚かを載せていただければ配る人も分かりやすいので、次の理事会までうまく精査して載せていただければと思います。また、ポスターチラシがすべての広告宣伝手段だとは思いませんが、一つの大きなツールだと思います。いかに効果的にこれを使って案内をかけていただくのかを考えていただいて、前年の参加者リストもありますので、多くの参加者、新たなジャンルの参加者が見込めるのではないかと思いますのでどうぞよろしくお願いいたします。
- <木村> 外部の協力要請ですが、外部協力とボランティアにもメディアアーツが乗っているが、差はなんでしょうか。

- <林> 募集、外部協力者に関しましては例年にならって記載しました。本年度に関してはボランティアとして考えておりますので記載の修正をいたします。
- <橋本> 募集要項を拝見させていただいたのですが、今の申込書は生徒が申し込んだ場合、わんぱくの写真を特定できないのではないのでしょうか。
- <林> そこまで考えが及んでいませんでしたので、申込書を変更していきたいと思います。
- <小瀧> 協賛、協力リストですが、次につなげるために何にどれだけかかったかが分かればいいのかと思いますので、記載していただければと思います。
- <廣田> 予算の部分で確認ですが、ボランティアのお弁当は予算の中の審判・協力団体弁当の部分に入っているのでしょうか。ボランティアも保険に入っていると記載されていますが、それもこちらの保険料の部分に入っていると考えるとよいのでしょうか。
- <林> 詳細の部分に関しまして、次回の審査までにお答えさせていただきます。
- <金> ボランティアの訪問先リストですが、アクションはしてないと思いますのが、下話やコンタクトなど現段階の状況を教えてください。
- <林> 具体的な動きはまだまだこれからですが、司会者として考えているメディアアーティストさんと宇都宮アート&スポーツさんには計画上のこともあり、アナウンスをお願いできればというこちら側の意図がありますので、下話をしております。
- <廣田> ポスターが3月の審議となっておりますが、こちらの具体的なスケジュールを教えてください。
- <林> ポスターに関して、毎年千葉徹也さんのデザインを使用している経緯がありまして、今年もその予定ですが、まだダウンロードできない状況でして、相馬委員長が東京J Cさんに確認したところ、3月中旬にダウンロードが可能になるということですので、そこから考えますと、最短で3月の常任理事会で上程できればと思っております。
- <小瀧> 小学校でわんぱく相撲を楽しみしている子どもたちがたくさんいると思いますが、決めかねている人や存在に気づいていない人もいますので、担当の先生に声かけや、少ないところからも集まれるように対応してもらいたいです。
- <木村> 本年の工夫で、参加募集でちばてつや先生のイラストを両面印刷でとっていますが、参加募集にイラストが入ってないのでしょうか。
- <林> チラシに関しては表面をちばてつやさんのイラストにし、裏面に申し込み用紙を印刷する予定です。まだ作成が間に合っておりませんので、今回添付しておりませんので至急作成致します。
- <須山> 校長会議に出席し、子どもたちへの参加を呼びかけると書いておりますが、日程はつかんでますか。
- <林> 校長会議については、2月18日となっておりますので、日程的に次回の理事会前になりますので、検討したいと思います。
- <村上> 校長会議の資料は対外文章なので、専務が最終確認をするということでご理解いただきたいと思います。あまりよい例ではありませんが、趣旨がJ Cでのルールというより、目的、そちらを優先にした法がよいというところでもあります。ただ、全国大会と一緒に、今月が最終審議なので資料ができてませんではいけないので、真摯に受けとめてほしいと思います。気になる文書が多く見受けられます。たとえば開催趣意書の「市民が主役のまちづくりをより進展させ、本大会自身もますます発展する大きな可能性を秘めております。」自分たちの立ち位置をどこに置いているのかという文章だったりします。あと「勝敗よりも礼節を身につけさせる」上から目線な書き方になっています。「宇都宮の子どもたちに両国国技館の土俵で相撲をとるといふ夢と目標を与える」子どもたちがはたして両国国技館の土俵で相撲をとるのがはたして夢となるのかとか、「勝つこと負けることが地域での帰属意識に」という勝敗が帰属意識につながる

らない。そういう細かいところを見直さないといけないのではないかと思います。それと対外に提出する文章としておかしいのが、ボランティア募集のお願いですが、こんな気持ちを子どもたちに伝えたいというような文章が稚拙なので精査していただきたい。

協-06 PR事業計画並びに予算（案）について

協議資料に基づき、橋本議長より上程文の読み上げ。

- <金> リビングマロニエと下野新聞の取材となっておりますが、これのPRについては各委員会にどういうふうにPRするのか、一貫性や指定はあるのでしょうか。
- <橋本> 基本的には広告イメージがあると思いますが、こちらの枠に収まるような形で掲載したいと思います。逆にこの枠内であれば、委員会の意見等をヒアリングしながら、記事の方を作っていければと思います。
- <金> 事業目的のLOMのブランディングというところを考えたときに、きちんと理事長所信に基づいて考えていかないとと思ひ質問させていただきました。もう一点、リビングマロニエの方なのですが、宮まつりのPRを、毎年ふるさと宮まつり開催委員会に対して無料で大きく掲載されています。その内容については、ふるさと宮まつり自体のPRを無料で掲載をする事項があるので、ここは一度考えていただいたほうがいいと思います。どのように、まちなか支局でも開催委員会という意味で、去年は大きく無料で掲載させていただきました。この部分で必要なかどうか、うまいやりとりができたならば、効果的な予算の使い方になるのではないかと思います。
- <橋本> 持ち帰り検討させていただきます。
- <安野> ブランディングとはどんなものか教えてください。もう一点は広告のアンケート検証についてどのように考えていますか。
- <橋本> ブランディングに関しての言葉自体広い意味合いですが、理事長所信に沿って書いていますので、みていただければと思います。続きまして検証に関して、PRと広告を分けて考えておりません。広告単体ではなくPRの中に広告が入っていると考えていただければと思いますので、トータルで考えていただければと思います。
- <安野> ストリートダンス選手権のPRは、開催しますよと知らせるのか、前倒しで参加者を集うのかというところはどお考えなのでしょう。
- <橋本> こちらは本来9月のストリートダンスなので、8月だと募集が間に合わないの、どちらかというストリートダンスを宇都宮JCで取り組んでいるというケースが多いはず。金常任からご意見がありまして、そもそも宮まつりを起案で載せなくてもいいのではないかとのお話をいただきましたので、場合によっては7月に参加募集をやっても面白いかと思ひまして、いま考えております。
- <小瀧> 参加動員につなげるというのが目的だと思いますが、非常に結果がわかりにくいと思います。この広告媒体、PRをみたという手法を考えていただきたいと思ひます。
- <林> 映像を用いた対外向けPRということですが、使いどころが難しいと思ひます。どういったところで流すとかの想定はどのように考えているのでしょうか。
- <橋本> 基本的には5月からの各種例会をスタートする前に映像を流していければと思ひます。たとえば会場で何か事業を行う場合、開会前に代表者が席に座り、そこから事業がスタートするまでの時間でこの映像を使っていければと思ひます。

- <林> そうすると、わんぱくやストリートダンスの際にはどこかモニターを運んで映像を流したりするのですか。
- <橋本> 実際モニターを運んだりするのが難しいのですが、プロジェクターなどを使ったりするのは可能なので、どれが一番効果的か考えてみます。
- <村上> 今年、広報専門の委員会をつくったということで、色々な仕掛けをつくっていただいて、色々とまた決まってきた大変ありがたいなと思います。今日の意見のなかで検証の話が出たと思います。たとえば費用をかけてやることに関しては費用対効果を検証しなくてははいけません。会員のお金ですから、そこはしっかりと検証する方法を考えなくてはいけないと思います。それと、是非拡大と連携してほしいと思います。それが検証の一つに材料になると思います。たとえばビジターで来た人がそういう媒体がきっかけになるかもしれないし、そうならなくてはならないのです。拡大だけのためではないですが、事業は地域に広がるため、その中に拡大が含まれているので、是非拡大と連携をとってほしいです。それからコラムのところ、宇都宮 J C の P R としてコラムと書いてありますが、市民の代表としての立場でコラムを書いて、その結果 J C のブランディングに繋げて行きたいという話だと思うのです。なのでそこは履き違えないでほしいと思います。最後に P R 映像の絵コンテの部分になりますが、これをみるのは市民だと思うので、少し立ち位置がおかしいと思います。J C を知らない人からみたら主張が強すぎて押しつけがましいと思います。誰がみるのかという視点に立ち映像を作っていただければと思います。日光会議や新春で流した映像ならいいですが、これは P R 映像なのでダイレクトに伝えていかなくてははいけません。その映像をみて J C を知らない市民が魂を揺さぶられる。私たち市民もやらなければいけないという気にさせるような映像にしなければいけないと思いますので、また委員会に持ち帰っていただければと思います。

協-07 その他

なし

14. 報告事項

報-01 対外出向者について

なし

報-02 年間公式スケジュールについて

なし

報-03 会費納入状況について

- <廣田> 会費につきましては次の理事会にて未納者の報告をさせていただきます。順序は定款に従い進めていきたいと思っております。是非未納の方には我々も電話掛けをいたしますので、常任メンバーの皆様にもご協力をお願い致します。

報-04 特別会員入金状況について

<中島(崇)>特別会費は随時ご連絡しております。

15. 監事講評

<澤畑>

毎度ながら総務と渉外の皆さん、ご設営ありがとうございます。そして福田直前、常任理事会の場にお越しいただきありがとうございます。今日、会議をみていて、常任理事のメンバーが全体的にずばっとした意見が出ていなかったと感じました。それなりの意見は出てくるのかなというレベルでした。特に前段の部分に関しては、まったく意見がなかったので、議案がよいのか、事業構築がよいのか、興味がなかったのか、皆さんよく考えてほしいと思います。意見がでないというのはよくないと思いますが、もちろん精度が完璧なのが理想ですが、ほんとにそうだったのかともう一度考えてほしいと思います。あと全体的にみて正副の意見、常任メンバーの意見を対応してないというのは話にならないので、特に正副というのはJCの中で経験と知識はもちろん、LOMを背負って立つ人たちが、忙しいなか会議を重ねてくれているのだから、何をやって会議しているのか、村上理事長の理事長所信というのは2014年のルールですが、それに乗っ取って進んでいるわけで、それを踏まえてずれてないかLOMの方向性をみてくれているのが正副なので、その正副の意見を対応してないのは大変重く受けとめてほしいと思います。これは最低限です。その他にもこの常任理事会で出た意見をしっかりと紳士に受けとめて対応を必ず行っていただきたいと思います。そして責任をもって上程していただければと思います。それができていない委員長がいましたら、それはしっかりと指導していただきたい、その上でしっかりと準備をして臨めば、スムーズな理事会ができあがるのではないかと思います。ちょっと厳しいことを言いましたが、この場は発表会ではありません。駄目なものは駄目、よいものはよいで、さらにブラッシュアップしていくにはどうすればいいのかを意見として提供し、しっかりとした議案をつくっていければいいと思います。そのためにも、是非人の議案に対して責任をもって意見をいただければと思います。

16. 閉会宣言

<中島(崇)>

公益社団法人宇都宮青年会議所
2014年度 第2回 常任理事会議事録

議長：(専務理事) 中島 崇

議事録作成人：総務委員会